

WORLD THEATRE
FESTIVAL
SHIZUOKA 2023

WORLD THEATRE
FESTIVAL
SHIZUOKA
ふじのくに⇄せかい演劇祭

令和5年度日本博2.0事業（委託型）

WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA ふじのくに⇄せかい演劇祭2023

会期：2023年4月29日[土・祝]～5月7日[日]

会場：静岡芸術劇場、舞台芸術公園、駿府城公園 ほか

<完全版プレスリリース>



ふじのくに⇄せかい演劇祭 2023 ガイドパンフレット 表紙
デザイン：阿部太一（TAICHI ABE DESIGN INC.）

[ふじのくに⇄せかい演劇祭2023]

主催：SPAC-静岡県舞台芸術センター、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
ふじのくに芸術祭共催事業



「ふじのくに⇄せかい演劇祭 2023」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は
SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当：坂本・西村 までお問い合わせ下さい。
Tel：054-208-4008（舞台芸術公園）／ E-mail：koho@spac.or.jp



WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA 2023



パフォーマンスで色づく、ゴールデンウィーク

SPAC-静岡県舞台芸術センターでは、今年もゴールデンウィークに「ふじのくに⇄せかい演劇祭2023」を開催いたします。“ふじのくに（静岡県）と世界は演劇を通じてダイレクトに繋がっている”というコンセプトのもと、国内外の最先端の舞台芸術を静岡で広く体験していただけるイベントです。

2023年、静岡県は「東アジア文化都市」に選ばれ、演劇祭にも中国・韓国の話題作がラインナップ。フランスからはオリヴィエ・ピィの注目作が来日を果たします。また、駿府城公園には、国内外30都市をツアーした宮城聡の代表作と、東京パラリンピック2020開会式の演出で世界の注目を集めたウォーリー木下の新作が登場。先鋭的な現代劇やダンス、そして民俗芸能を取り入れた音楽劇まで幅広く楽しめる、世界の「今」にふれる演劇の祭典です。

■ 「ふじのくに⇄せかい演劇祭」とは

公益財団法人静岡県舞台芸術センター（SPAC）では、1999年に開催された世界の舞台芸術の祭典「第2回シアター・オリンピックス」の成功を受けて、2000年より「Shizuoka 春の芸術祭」を毎年行い、各国から優れた舞台芸術作品を招聘・紹介してきました。SPACが活動15年目を迎えた2011年からは、名称を「ふじのくに⇄せかい演劇祭」と改め、新たなスタートを切りました。「ふじのくに⇄せかい演劇祭」という名称には、「ふじのくに（静岡県）と世界は演劇を通じて、ダイレクトに繋がっている」というメッセージが込められています。静岡県の文化政策である「ふじのくに芸術回廊」と連携しながら、世界最先端の演劇はもちろん、ダンス、映像、音楽、優れた古典芸能などを招聘し、静岡で世界中のアーティストが出会い、交流する——そんなダイナミックな「ふじのくにと世界の交流（ふじのくに⇄せかい）」を理念としています。

■ SPAC（Shizuoka Performing Arts Center）

公益財団法人静岡県舞台芸術センター（Shizuoka Performing Arts Center：SPAC）は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007年より宮城聡が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。13年、全国知事会第6回先進政策創造会議により、静岡県のSPACへの取り組みが「先進政策大賞」に選出。18年度グッドデザイン賞を受賞、無形の活動が一つのデザインとして高く評価されました。

■ 「東アジア文化都市」とは



東アジア
文化都市
2023 静岡県
Culture City of East Asia
2023 SHIZUOKA

日中韓文化大臣会合での合意に基づき、日本・中国・韓国の3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、文化交流、文化芸術イベント等を実施する国家的プロジェクトです。これにより、アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指します。また、東アジア文化都市に選定された都市がその文化的特徴を生かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、継続的に発展することも目的としています。

「東アジア文化都市」誕生から10年、また、富士山の世界文化遺産登録10周年を迎える節目の年である2023年、静岡県は、中国の成都市、梅州市、韓国の全州市の3都市とともに、「東アジア文化都市」に選定され、日本の文化首都として、「東アジア文化都市2023静岡県」を開催します。1年間を通じて、県内全域で切れ目なく多彩なイベントを開催し、静岡の、そして日本の「文化」の魅力を世界に発信します。

WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA 2023



巻頭言

ひとのせいにしなくていいっていいね！



生物の多様性が結果として地球を守ってゆくのと
同じく、社会は多様な価値観を併存させている方
が最終的にしぶとさを持つことは歴史が明示してく
れています。にもかかわらず異なる価値観を持つ者
を排除しようとする傾向がなぜ社会に生まれるので
しょうか。それをたどってゆくと、「排外的な思想」
は「人々が自信を失っている状態」と深い関係にあ
ることに気づきます。

いま日本人は、一人あたりの国民所得がアップし
なかった最近30年を振り返って、すっかり自己肯定
感を失っています。しかし世界の中で考えてみれば、
本来の「人間の自信」というものが現在の日本の環
境で獲得できないはずはありません。

では、「人間の自信」を深いところで取り戻すに
はどのような処方がありえるのでしょうか？

僕にはいまの日本人が「自分の人生をなんのため
に使うか」という基本的なところで迷子になってい
るように感じられます。

高度成長期からバブル期までは、多くの日本人が
「豊かになるために働くのだ」と考えていたでしょ
う。これはまあ、日本という国が決めてくれた人生
の使い方です。しかしバブルがはじけて以降の30年

間、日本では「なんのために生きるか、人生の使い
道をおのおのが選ぶ」とはならなかったようです。
「上が決めてくれないので、周りに合わせていた」
のかもしれませんが。

なのでこの先、日本の人々が自己肯定感を持って
生きるためには、自分の人生を何に使うかを自分で
選ぶことがまず一番のポイントになるのではないで
しょうか。そして多くの市民にとって、テレビでし
か見られないような遠いところではなく自分の身
近に、人生を何に使うかを自分で選んだ人がいて、
「そんな選択をしたら人生詰んじゃうのでは」と思
いきや、なんとかかんとか生きている、という姿を
目撃できれば、それが励ましになるのではないで
しょうか。

僕は、こんにちの日本社会でアーティストが果た
すべき役割はここにこそあると思っています。「あ
あ、これでいいんだ、人生の使い道を自分で決めて
いいんだ」という実に当り前の気づきが地域の人々
に広がることで、市民社会の活性化(そして安定化)
につながると思うからです。

SPAC芸術総監督 宮城聡

宮城 聡 MIYAGI Satoshi

1959年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡邊守章・日高八郎各師から演劇論を学び、90年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。17年『アンティゴネ』を仏・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、同演劇祭史上初めてアジアの劇団が開幕を飾った。他の代表作に『王女メディア』『マハーバーラタ』『パール・ギュント』など。近年はオペラの演出も手がけ、22年6月に世界的なオペラの祭典、仏・エクサンプロヴァンス音楽祭にて『イドメネオ』、同年12月には独・ベルリン国立歌劇場における初の日本人演出家として『ポントの王ミトリダーテ』を演出し大きな反響を呼んだ。04年第3回朝日舞台芸術賞受賞。05年第2回アサヒビール芸術賞受賞。18年平成29年度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。19年4月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。



©加藤孝

WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA 2023



ふじのくに⇄せかい演劇祭2023 上演全ラインナップ

▶ 会期：2023年4月29日[土・祝]～5月7日[日]

静岡芸術劇場

日本初演 演劇 <<北京（中国） 4月29日[土・祝]、30日[日] 各日13:30

孟京輝 | 『アインシュタインの夢』

日本初演 演劇 <<アンサン（韓国） 5月3日[水・祝]14:00、4日[木・祝]13:00

チョン・インチョル | 『XXLレオタードとアナスイの手鏡』

日本初演 ダンス <<ソウル（韓国） 5月7日[日]14:00/19:00

アン・ウンミ | 『Dancing Grandmothers ～グランマを踊る～』

舞台芸術公園 野外劇場「有度」

日本初演 演劇 <<アヴィニョン（フランス） 4月29日[土・祝]、30日[日] 各日17:00

オリヴィエ・ピィ | 『ハムレット(どうしても！)』

舞台芸術公園 屋内ホール「楢円堂」

日本初演 音楽劇 <<ソウル（韓国） 5月5日[金・祝]12:30、6日[土]13:00

パク・インヘ | 『パンソリ群唱 ～済州島 神の歌～』

同時開催 ふじのくに野外芸術フェスタ2023静岡

「東アジア文化都市」春の式典上演作品

SPACレパトリー 演劇 <<静岡

駿府城公園 紅葉山庭園前広場 特設会場 5月3日[水・祝]～6日[土] 各日18:45

宮城聡 | 『天守物語』

ストレンジシード静岡2023/コアプログラム

世界初演 演劇 <<静岡

駿府城公園 東御門前広場 5月4日[木・祝]～6日[土] 各日11:00

ウォーリー木下 | 『χορός/コロス』

ストレンジシード静岡2023/コアプログラム

日本初演 パーティカルダンス <<ソウル（韓国）

静岡市街地 毎日江崎ビル 5月4日[木・祝]～6日[土] 開演時間未定

アン・ウィスク | 『Woman with Flower』

同時開催 ストレンジシード静岡2023 駿府城公園、静岡市役所・葵区役所など静岡市内各地

▶ 会期：2023年5月4日[木・祝]～6日[土]

WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA 2023



日本初演 演劇<<北京（中国）

『アインシュタインの夢』

4月29日[土・祝]、30日[日] 各日13:30

会場：静岡芸術劇場

演出：孟京輝

[全席指定] 上演時間：75分 多言語上演／日本語字幕

プレトーク：各回開演25分前より

4/30[日] スペシャルトーク「いま演劇にできること～アジアの演出家たちの視点～」



中国の小劇場演劇を牽引し続ける孟京輝が静岡に！ 時空間を旅するように、夢のなかをめぐるように——

出世作『恋愛的犀牛』での観客動員数は延べ100万人を超え、観劇がステータスになるほど若者の熱狂的な支持を集める中国の雄・孟京輝。今作では、アインシュタインが残した手紙や会話の記録、カフカの短編小説『田舎医者』などからインスピレーションを受け、実験的なフィジカルシアターを緻密に組み上げる。病棟を思わせる無機質な空間に、映像やライブ演奏、アクロバティックな身体表現、コントじみたスピーディな掛け合いで描き出される夢の世界は、初めてみるはずなのに、ずっと前から知っているようでもある。見慣れたはずの光景が歪んでいくうちにふと気づく、何かが“いつもと違う”。「早く寝なさい」——眠れぬ夜にみる夢が、静岡芸術劇場にいま姿を現す。

あらすじ

世界を揺るがす理論を生み出そうとしていたアインシュタインは、繰り返される夢のなかへ落ちてしまった。合わせ鏡のように、連なるベッドと砂嵐のテレビ画面、天井に浮かぶシートにくるまれたソファ。厳かな雰囲気を作り出した千鳥足の男が迷い込むと、静止した時間が動き出す。円を描くような時間の中で、繰り返し出会い、すれ違い、拒絶しあう男女たち。細切れの夢は織り合わされて、あなたしか知らない景色を思い出させる。

モンジンファイ
孟京輝 MENG Jinghui

作家・演出家、映画監督。中国国家話劇院所属演出家。孟京輝戏剧工作室（1997年設立）を主催する傍ら、小劇場の運営、国内の複数の演劇フェスティバルのディレクターを務める。不条理演劇の演出で注目を集めるほか、スピーディな対話や歌唱・生演奏、恋愛メロドラマなどその多彩な作風で若者の共感を得て人気を集め、中国の文化と芸術のトレンドをリードする多数の現代演劇作品を制作してきた。中でも「恋愛的犀牛」は2,500回の公演を重ね、国内では「現代の恋愛バイブル」として知られる。国外でも活動の場を広げており、アヴィニョン演劇祭からの招聘で2019年『Teahouse』、22年『THE SEVENTH DAY』を上演。

製作：ノース・パーク・シアター
後援：中華人民共和国駐日本国大使館



© Meng Theatre

WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA 2023



日本初演 演劇<<アンサン (韓国)

『XXLレオタードとアナスイの手鏡』

5月3日[水・祝] 14:00、4日[木・祝] 13:00

会場：静岡芸術劇場

演出：チョン・インチョル 作：パク・チャンギユ

[全席指定] 上演時間：90分 韓国語上演／日本語字幕

プレトーク：各回開演25分前より

アーティストトーク：5月3日(水・祝) 終演後

4/30[日] スペシャルトーク「いま演劇にできること～アジアの演出家たちの視点～」



© kisoul

制服の下に隠した“自分らしさ”。

韓国のリアルをポップに描いた、悩める高校生たちの物語。

大学入試を控えたジュンホ。彼はレオタードを着ると幸せを感じるが、友人やガールフレンドには絶対に言えない。ところがある日、レオタード姿の男性の自撮り写真が流出、同級生たちが写真の人物を特定しようと騒ぎはじめた…。一体誰が、何の目的で拡散させたのか？

本作は、2014年に起きたセウォル号沈没事故をきっかけに、犠牲となった高校生たちが暮らしていたアンサン市の協力を得て製作され、15年の初演以来繰り返し上演されてきた。その間に世界的な広がりを見せた「MeToo運動」や「LGBTQ」への関心、コロナ禍での価値観の変化など同時代的な視点も取り入れ、22年にはロンドンでも上演され話題を呼んだ。格差社会における受験や就職の悩み——「いま」を生きる若者たちの心の機微が、日本の観客と交差する。

あらすじ

大学入試の不安と焦りから、女性用レオタードを着て自撮りすることで心の安定を探すジュンホ。しかし、教育熱心な母親や友人たちからの目を気にして秘密にしている。ところがある日、レオタード姿のジュンホの写真が学校内で拡散されてしまう。それは、学校で孤立してしまっているヒジュの仕業だった。体育科のある大学に入りたいヒジュは、その写真を口実に体育の試験であるダンスのペアになろうとジュンホに言い寄る。徐々にお互いを理解し協力し合う二人の姿に、周囲からは冷ややかな目が注がれるが…。

チョン・インチョル JUN Inchul

演出家、シアター・カンパニー・ドルバグ主宰。型にはまらない空間構成や、韓国の社会問題を細やかに演出するという特徴的なスタイルで注目されている。当初は自らの劇団を持つ必要はないと考えていたが、次第に同志で作品をつくりたいと思い、2015年に「社会階級」「青年」「ジェンダー」に焦点をあてた劇団を設立。演劇は学校では学べないことがみえてくる窓であり、人生について学ぶことのできる学校のようなという考えを持ち、「私たちはみな繋がっている」というメッセージとともに、「世代」「場所」「俳優」を演劇を通じ繋げていく活動を模索している。近年では、積極的に韓国の新鋭劇作家とのコラボレーションに挑戦し、特にSF小説を戯曲化することに取り組んでいる。日本では「東アジア文化都市2019豊島」の一環として、SF小説家・星新一のショートショートセレクション『ポッコちゃん』を上演した。



© kisoul

製作：シアター・カンパニー・ドルバグ



後援：駐日韓国大使館 韓国文化院



「ふじのくににせかい演劇祭 2023」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当：坂本・西村 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008 (舞台芸術公園) / E-mail：koho@spac.or.jp



WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA 2023



日本初演 ダンス <<ソウル (韓国)

『Dancing Grandmothers ～グランマを踊る～』

5月7日[日] 14:00/19:00

会場：静岡芸術劇場

振付・演出：アン・ウンミ

[全席指定] 上演時間：90分

プレトーク：各回開演25分前より



© Young-Mo Choe

踊る門には福来たる？！

劇場が世代を超えた「グランマ」たちのダンスフロアに！

“韓国のピナ・バウシュ”とも評され、世界で活躍する振付家アン・ウンミ。彼女は故郷を巡る旅の中、出会った「グランマ」たちが自由に踊る姿を映像に記録した。それぞれが歩んできた人生の^{ひだ}襞を雄弁に語る温かい身体と、鍛え抜かれたカンパニーのダンサーの身体が舞台上で化学反応を起こし、ポジティブなエネルギーが満ちる。

今回は、静岡に暮らす「グランマ」たちと共演するスペシャルバージョン。色鮮やかな光、映し出される韓国の風景と人々——世代を超えた身体が舞台上で混ざり合うとき、静岡芸術劇場はダンスフロアと化し、観客をも巻き込むダンスの渦が演劇祭のフィナーレを飾る！

アン・ウンミ AHN Eun-Me

舞踊家、振付家。1988年にAhn Eun-Me Companyを設立した後、91年にニューヨークに移り、在住時にピナ・バウシュとの交流を深めた。2001年に韓国に戻り、自国の歴史や社会問題を調査し作品に昇華させるなど、習慣にとられない挑発的な踊りで伝統と現代の対比に挑み続けている。その前衛的で国際的な活動が評価され、02年FIFAワールドカップオープニングセレモニーの振付を務め、韓国人では初めてイギリスのエディンバラ国際フェスティバルに招待された。



© Oh Min Soo

製作：アン・ウンミ舞踊団、斗山アートセンター

共同製作：パリサマーフェスティバル

協力：在日本大韓国民団静岡県地方本部、Dance Company“恋するシニア”

後援：駐日韓国大使館 韓国文化院



Ministry of Culture, Sports
and Tourism



WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA 2023



日本初演 演劇<<アヴィニョン (フランス)

『ハムレット(どうしても!)』

4月29日[土・祝]、30日[日] 各日17:00

会場：舞台芸術公園 野外劇場「有度」

翻訳・演出：オリヴィエ・ピイ

<ウィリアム・シェイクスピアによる>

[全席自由] 上演時間：140分 フランス語上演/日本語字幕

プレトーク：各回開演25分前より



© Christophe Raynaud de Lage / Festival d'Avignon

ハムレットの運命をめぐる、かつてない冒険へようこそ！ 劇詩人オリヴィエ・ピイの魔法が織りなす「奇跡」がここに――

万の心を操る劇作家・シェイクスピアが遺した傑作悲劇『ハムレット』。フランスを代表する劇作家・演出家のオリヴィエ・ピイはこの世界一有名な古典をアヴィニョン演劇祭の市民参加型シリーズ企画として翻訳・演出し、俳優や一般市民、俳優学校の学生らとともにリーディング形式で2021年に上演、大きな評判を呼んだ。「善と悪」「自我」「時間」など哲学的なテーマから原典を紐解いたこの挑戦は全10作に及び、そのエッセンスを凝縮したエピソード11が『ハムレット (どうしても!)』として静岡にやってくる！

ピイの演劇を貫くのは「ことばの力が世界を変える」という信念。復讐の運命に翻弄されるハムレットが、西洋の偉大な思想家たちと出会い対話を始めると、新たなドラマが生まれ、詩が溢れ出す。変幻自在な4人の俳優とミュージシャンは、観客を心躍る知的な冒険へと誘いこむ。「生きるべきか、死ぬべきか」、野外の劇空間であなたの目に映るのは――。

あらすじ

父である先王の亡霊からその死の経緯を知らされたハムレットは、死を仕組んだ現王・叔父クローディアスへの復讐を誓い狂気を演じる。復讐計画により、ハムレットを慕うオフィーリアやその兄レアティーズ、王妃ガートルードをはじめ、周りの人々は運命の歯車を狂わせていく。ハムレットの友人ホレーシオが語り継ぐこの悲運の物語に、西洋の偉大な思想家、デカルト、フロイト、ハイデガー、ヴィトゲンシュタイン、デリダなどが次々と現れる。世紀をまたぐ出会いの先、その運命はどう変わる？

オリヴィエ・ピイ Olivier Py

劇作家、演出家、俳優。1965年、南仏グラス生まれ。87年にパリ国立高等演劇学校（コンセルヴァトワール）に入学、並行してカトリック学院で神学と哲学を学ぶ。95年、アヴィニョン演劇祭で上演時間24時間という異例の作品『常夜灯一果てしない物語』の7日間連続上演を敢行し、一躍脚光を浴びる。98年から2007年までオルレアン国立演劇センターの芸術監督、同年3月から12年までパリ・オデオン座の芸術総監督を務める。13年、アヴィニョン演劇祭のディレクターに就任。23年2月にシャトレ座ディレクター就任が発表になった。SPACではこれまでに『リリュージョン・コミック舞台は夢』、『若き俳優への手紙』（08年）、「グリム童話」3部作（09年）、「オリヴィエ・ピイの『<完全版>ロミオとジュリエット』（12年）、ピイ自身によるシャンソンライブ『ミス・ナイフ、オリヴィエ・ピイを歌う』（14年）、新演出版『グリム童話～少女と悪魔と風車小屋～』（16年）を上演。現代フランスを代表する劇作家・演出家のひとり。



© Carole Bellaïche

製作：アヴィニョン演劇祭

©2021年7月、第75回アヴィニョン演劇祭にて初演。



「ふじのくににせかい演劇祭 2023」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当：坂本・西村 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008（舞台芸術公園）／ E-mail：koho@spac.or.jp



東アジア
文化都市
2023 静岡県
Culture City of East Asia
2023 SHIZUOKA

SPAC
SHIZUOKA PROGRAMMING ARTS CENTER

WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA 2023



日本初演 音楽劇 <<ソウル (韓国)

『パンソリ群唱 ～濟州島 神の歌～』

5月5日[金・祝] 12:30、6日[土] 13:00

会場：舞台芸術公園 屋内ホール「楢円堂」

演出・作・音楽監督：パク・インヘ

ドラマトウルク：イ・ギョンファ

[全席自由] 上演時間：95分 韓国語上演/日本語字幕

プレトーク：各回開演25分前より



© NA Seungyeol

朝鮮の民俗芸能パンソリの“群唱”で情感たっぷりに謳いあげる、 家族の再生の神話

一人の歌い手が、太鼓のリズムに乗せ、独特の節回しで喜怒哀楽を語る朝鮮の民俗芸能「パンソリ」。その若き旗手であり、伝統を取り入れた新しい創作でも注目を集めるパク・インヘが、濟州島に伝わる〈家の神々の起源譚〉を、6人の“群唱”による叙情豊かな音楽劇に仕立てた。権威的な父、憤ましい母、意地悪な側室、賢く勇敢な末っ子…伝統的な家のあり方を映す神話を、パクは、家族がコミュニケーション不全を乗り越え再生していく物語として昇華する。日本平の森に佇む楢円堂に“神の歌”がこだまする時、私たちは共に笑い語る喜びを思い起こすだろう。

あらすじ

ナムソンビは、妻ヨサンと7人の息子たちと貧しい暮らしをしていました。ある日、ジョンサンおじさんが一家のもとを訪れ、オドン島での穀物貿易の仕事を勧めました。7人の息子が作った船でオドン島に向うナムソンビ。しかし彼は、そこで出会ったノイルジョデに恋をし、全財産を浪費してしまいました。一方ヨサンは、末っ子のノクティセンイのおかげで裕福になりました。ヨサンは夫が3年経っても帰って来ないので、探しに行きました。が、ノイルジョデに騙され、池に突き落とされてしまいました。ノイルジョデはヨサンに化けて家に帰りました。しかしノクティセンイは、彼女が母親でないことに気がきました。正体がばれたことを察したノイルジョデは、7人の息子を殺そうと企みました。そして「自分の病気を治す唯一の方法」だとして、ナムソンビに7人の息子の肝臓を取り出すよう唆し…。

パク・インヘ PARK In-hye

パンソリ俳優・作家。国家指定重要無形文化財技能保持者(第5号パンソリ)。伝統芸能よりも創作手段としてのパンソリに注目し、パンソリ一人芝居、チャンググ(韓国の伝統的な歌劇)、ミュージカル、ドラマなど幅広い作品に参加。『パンソリ群唱 ～濟州島 神の歌～』は、俳優・作家・音楽監督として活動してきた彼女の初プロデュース作品である。主な作品に『Pilgeyongsa Bartleby』(2016)、ミュージカル『阿娘歌(アランガ)』(2016)、『パンソリ・オセロ』(2017)など。2011年韓国文化芸術委員会次世代アーティスト(AYAF)に選出。12年『The Forest of Anykschai』がリトアニア国際演劇祭グランプリを受賞。13年月刊誌「AUDITORIUM」の次世代をリードする若手アーティストに選ばれた。



© NA Seungyeol

レクチャー&デモンストレーション

代表的な曲目や民俗楽器カヤグム(伽耶琴)の実演など、パンソリへの理解がより深まるレクチャー
日時：5/7(日) 10:30～(所要時間約90分程度) 定員：20名 参加料：1,000円 [要予約]

製作：パンソリ・アジト・ノレボックス
助成：義政府文化財団、韓国芸術経営支援センター
後援：駐日韓国大使館 韓国文化院



「ふじのくに」せかい演劇祭 2023」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は
SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当：坂本・西村 までお問い合わせ下さい。
Tel：054-208-4008 (舞台芸術公園) / E-mail：koho@spac.or.jp



WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA 2023



同時開催 **ふじのくに野外芸術フェスタ2023静岡** 主催：ふじのくに野外芸術フェスタ実行委員会



広場や公園、路上など、身近な場所でアートに出会えるお祭り「ふじのくに野外芸術フェスタ」。2013年より毎年開催され、これまでに静岡市葵区の駿府城公園、同清水区のマリンパークをはじめ、富士宮市、浜松市、伊豆の国市、三島市、藤枝市、掛川市、袋井市、御殿場市、伊東市にて実施。国内外のアーティストによる屋外スペースでのサイトスペシフィックな舞台作品を上演しています。2016年からは「ふじのくに≡せかい演劇祭」と「ふじのくに野外芸術フェスタ静岡」を同時開催しており、毎年全国各地から来静した2,000名を超える観客が、野外空間での観劇を楽しんでいます。

また、2016年にスタートし、18年からは静岡市が推進する「まちは劇場」事業の一環として、毎年GWに開催してきたストリートシアターフェスティバル「ストレンジシード静岡」も、2023年度よりこの一環として開催。これまで以上に濃く深く楽しめる、3つのプログラムを展開します。

SPACレパートリー 演劇 <<静岡

「東アジア文化都市2023静岡県」春の式典上演作品

『天守物語』

5月3日[水・祝]、4日[木・祝]、5日[金・祝]、6日[土]

各日18:45開演

会場：駿府城公園 紅葉山庭園前広場 特設会場

演出：宮城聡 作：泉鏡花 音楽：棚川寛子

[全席指定] 上演時間：65分 日本語上演／中国語・韓国語・英語字幕

プレトーク：各回開演35分前より

4/30[日] スペシャルトーク「いま演劇にできること～アジアの演出家たちの視点～」



© K.MIURA

この世ならぬもの^{す しらさぎじょう}の棲む白鷺城 天守閣第五重。

その主、^{とみひめ}美しき富姫と、^{ずしよのすけ}若き侍・図書之助。異界の者同士にだけ許される純粋な恋——

泉鏡花の幻想世界が俳優たちの生演奏にのせて華ひらくとき、駿府城天守閣がまぶたに浮かぶ…

『天守物語』は1996年に初演され、日本国内をはじめ、インド、パキスタン、中国、エジプト、韓国、アメリカ、フランス、台湾等の国内外30都市で上演されてきました。宮城演出の特徴である「俳優による生演奏」と「二人一役の手法（一つの役を“台詞”を担当する俳優と“動き”を担当する俳優の二人で演じる）」をはじめ、アジアの多様な演劇の伝統を現代の新しい創作につなぐ趣向が随所に散りばめられており、まさに“祝祭音楽劇”の原点と言える作品です。風そよぎ木々の匂い漂う開放的な野外空間で、打楽器の力強い響きにのせて華ひらく泉鏡花の幻想世界にどうぞご期待ください。

製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター

※詳細は別紙『天守物語』プレスリリースをご覧ください。

「ふじのくに≡せかい演劇祭 2023」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は
SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当：坂本・西村 までお問い合わせ下さい。
Tel：054-208-4008（舞台芸術公園）／ E-mail：koho@spac.or.jp

WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA 2023



世界初演 演劇 <<静岡

ストレンジシード静岡2023/コアプログラム

『χορός/コロス』

5月4日[木・祝]、5日[金・祝]、6日[土] 各日11:00開演

会場：駿府城公園 東御門前広場

作・演出・構成・美術：ウォーリー木下

振付・演出・出演：いむろなおき、金井ケイスケ、黒木夏海、富田昌則

音楽：吉田能

[整理番号付き自由席] 上演時間：約40分

ストレンジシード静岡フェスティバルディレクターのウォーリー木下が演出する、ストレンジシード静岡2023のコアプログラム。多彩なジャンルのアーティストからなるクリエイションチームと60名を超える公募からなる出演者が静岡に集結し、群衆が主人公となる白昼夢のような演劇作品を作り上げる。

製作：株式会社木 共同製作：ストレンジシード静岡2023



日本初演 パーティカルダンス <<ソウル (韓国)

ストレンジシード静岡2023/コアプログラム

『Woman with Flower』

5月4日[木・祝]、5日[金・祝]、6日[土] 開演時間未定

会場：静岡市街地 毎日江崎ビル

演出：アン・ウィスク

[整理番号付き自由席] 上演時間：約30分

空中パフォーマンスに特化した韓国のカンパニー、クリエイティブ・ダンディが静岡の空を舞う！垂直にそびえるビルの壁をキャンバスに、ダンサーが描き出す「空間の詩」。重力に囚われない自由な身体が、無限の想像力をかき立てる。

製作：クリエイティブ・ダンディ



ストリートシアターフェス

ストレンジシード静岡

5月4日[木・祝]、5日[金・祝]、6日[土] 各日11:00~21:00 (予定)

会場：駿府城公園、静岡市役所・葵区役所など静岡市内

予約不要・参加無料 ※一部予約制・有料の場合あり

ストリートシアターってなんだ？

公園の芝生で、新緑を背景にした演劇。街角にダンサーが現れ、人々が行き交うなかはじまるパフォーマンス。突然降り出した雨や風、観客までも取り込んで演出にしてしまう“ストリートシアター”のフェスティバル。

【出演】きゅうかくうしお、江本純子、マームとジプシー …and more!

プログラムディレクター：ウォーリー木下 / コンセプター：甲賀雅章 / イラスト：しりあがり寿
共催：SPAC-静岡県舞台芸術センター

※詳細は別紙「ストレンジシード静岡」プレスリリースをご覧ください。



WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA 2023



そのほかの関連企画

◎スペシャルトーク 「いま演劇にできること～アジアの演出家たちの視点～」

4月30日[日] 10:45～11:45

会場：静岡芸術劇場 2Fカフェ・シンデレラ

日本・中国・韓国の演出家たちが自由に語り合います。

無料・要予約 ※『アインシュタインの夢』『XXLレオタードとアナスイの手鏡』
『天守物語』いずれかの公演をご予約済みの方。

パネリスト：

孟京輝（演出家）、チョン・インチョル（演出家）、宮城聡（演出家・SPAC芸術総監督）

司会：中井美穂（アナウンサー）



© Meng Theatre



© kisoul



©加藤孝

◎広場トーク 「伝統ってなんだ？」

5月5日[金・祝] 16:30～17:30 無料・予約不要

会場：フェスティバルgarden

駿府城公園の開放的な空気のもと、

宮城聡とアーティスト・論客たちが自由に語り合います。

パネリスト：

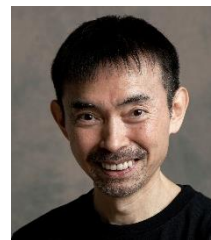
黛まどか（俳人）※、パク・インヘ（演出家・パンソリ俳優）、
ウォーリー木下（演出家・劇作家・ストレンジシード静岡 フェスティバルディレクター）
宮城聡（演出家・SPAC芸術総監督）

司会：中井美穂（アナウンサー）

※「黛」正しくは旧字体 黛



© NA Seungyeol



©加藤孝



◎せかいの劇場ミニミュージアム てあとろん

10:00～18:00（演劇祭期間中は休館日なし） 入場無料・予約不要

2023年4月、舞台芸術公園の入り口にオープン！

“生きた劇場博物館”でもある舞台芸術公園。古代ギリシアから現代へ、古今東西の劇場建築の歴史を旅してみよう。

◎お茶摘み体験をしよう！ in 舞台芸術公園

5月6日[土] 9:30～11:30 ※雨天中止

舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」前 集合

参加費：一般 700円、高校生以下500円、未就学児無料 要予約

◎フェスティバルbar（舞台芸術公園）

◎フェスティバルgarden（駿府城公園）

演劇祭のコミュニティスペース。

フェスティバルgardenでは日替わりで様々なトークイベントも。

◎フェスティバルbar 会場：舞台芸術公園「カチカチ山」

日時：4月29日[土・祝]、30日[日] 各日15:00～21:00

◎フェスティバルgarden 会場：駿府城公園 東御門前広場

日時：5月3日[水・祝]、4日[木・祝]、5日[金・祝]、6日[土] 各日11:45～18:30

プロデューサー：株式会社オフィススノド 代表 柚木康裕



「ふじのくにせかい演劇祭 2023」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当：坂本・西村 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008（舞台芸術公園）／ E-mail：koho@spac.or.jp

WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA 2023



チケット情報

★全て税込み

SPACの会会員先行予約開始 3月18日[土]10:00 / 一般前売開始 3月25日[土]10:00

演劇祭パスポート **限定数発売** 全作品を制覇したい方におススメのパスポート。

一般：20,000円 / SPACの会会員：16,000円

※パスポートのご利用は、1演目につき1回、ご本人様に限らせていただきます。※パスポート購入後、ご観劇希望の演目を各公演前日までに
お電話もしくは窓口にてご予約ください（ご希望の公演が満席の場合はご予約いただけません。どうぞお早めにお申し込みください）。

一般 4,200円

ペア割引 3,700円（2名様で1枚につき）

グループ割引 3,300円（3名様以上で1枚につき）

ゆうゆう割引 3,500円 [満60歳以上の方] ※公演当日、年齢のわかる身分証をご提示ください。

学割 2,000円 [大学生・専門学校生]

1,000円 [高校生以下] ※公演当日、学生証をご提示ください。

障がい者割引 2,900円 [障害者手帳をお持ちの方]

※付き添いの方（1名様）は無料。公演当日、受付にて障害者手帳もしくはミライロIDをご提示ください。

※各種割引を組み合わせるのご利用はできません。 ※割引をご利用の際は、必ずご予約時にお知らせください。

※全演目パスポート、障がい者割引、10名様以上のご予約については、電話・窓口のみでの取り扱いになります。

『χορός／コロス』砂かぶり椅子席 1,000円 [SPACの会会員割引あり] ※椅子席エリア外での観覧は無料（予約不要）

『パンソリ群唱 ～済州島 神の歌～』レクチャー&デモンストレーション 1,000円 ※演劇祭パスポート対象外

チケット購入方法

電話予約 SPACチケットセンター TEL：054-202-3399（受付時間10:00～18:00／休業日を除く）

ウェブ予約 <https://festival-shizuoka.jp>

窓口販売 静岡芸術劇場チケットカウンター（受付時間10:00～18:00／休業日を除く）

※チケットのご予約受付は公演前日の18時までとなります。

当日券 残席がある場合のみ、開演1時間前より各公演会場の受付で販売します。

※当日券の有無は、公演当日にお電話もしくはTwitter(@_SPAC_)でお確かめください。

アクセス

ゴールデンウィークの日中は、渋滞や公共交通機関の混雑が予想されますので、時間に余裕をもってお越しください。

静岡芸術劇場（静岡市駿河区東静岡2丁目3-1）

JR「東静岡駅」南口から徒歩約5分。

電車 ◎最寄りのJR「東静岡駅」は、JR「静岡駅」より東海道本線（沼津・熱海方面、上り）で約3分。

※1時間に5～6本、10～15分間隔で運行しています。

◎静岡鉄道「長沼駅」から徒歩約12分。

自家用車 ◎JR「東静岡駅」南側のグランシップ一般駐車場をご利用ください。

※駐車料金は劇場内の精算機をご利用いただくと1時間100円になります。

「ふじのくににせかい演劇祭 2023」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当：坂本・西村 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008（舞台芸術公園） / E-mail：koho@spac.or.jp



東アジア
文化都市
2023 静岡県
静岡市駿河区
2023 SHIZUOKA

SPAC
SHIZUOKA PROGRAMMING ARTS CENTER

WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA 2023



舞台芸術公園（静岡市駿河区平沢100-1）

バス 無料チャーターバスをご利用ください。

※舞台芸術公園バスロータリーから各劇場へは徒歩5～10分です。

自家用車 ◎東名高速道路清水ICから車で約30分、静岡ICから約30分、日本平・久能山スマートICから約15分。
静岡バイパス千代田上土ICから約25分。

◎日本平動物園より日本平方面へ1.8キロ先、左手の舞台芸術公園内の駐車場をご利用ください。

お願い 舞台芸術公園内の駐車場は台数に限りがございます。自家用車で越しのお客様は、
グランシップ一般駐車場等に駐車の上、無料チャーターバスのご利用をおすすめいたします。

舞台芸術公園往復無料チャーターバス Charter buses for Shizuoka Performing Arts Park

到着時間はおおよその目安です。	4/29[土・祝]・30[日]		5/5[金・祝]		5/6[土]		5/7[日]		
	往路	復路	往路	復路	往路	復路	往路	復路	
JR東静岡駅南口 JR Higashi-Shizuoka Station	15:10	15:55	○	11:30	14:40	12:00	15:10	9:45	12:40
静岡芸術劇場 Shizuoka Arts Theatre	15:15	16:00	○	↓	↑	↓	↑	↓	12:35
舞台芸術公園 Shizuoka Performing Arts Park	15:30	16:15	○	11:45	14:25	12:15	14:55	10:00	12:20

○…終演約20分後より40分間隔で運行

駿府城公園（静岡市葵区駿府城公園1-1）

電車 ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約20分。

◎静岡鉄道「新静岡駅」から徒歩約12分。

バス ◎しずてつジャストライン「市民文化会館入口」停留所下車、徒歩約8分。

※JR「静岡駅」北口5番または6番乗場から約7分（運賃100円、5～10分間隔で運行しています）

自家用車 ◎「静岡市民文化会館前駐車場」（地下駐車場・有料）及び周辺駐車場をご利用ください。

毎日江崎ビル（静岡市葵区七間町8-20）

電車 ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約10分。

◎静岡鉄道「新静岡駅」から徒歩約5分。

お問い合わせ

SPACチケットセンター **054-202-3399**（10:00～18:00／休業日を除く）

◆「ふじのくににせかい演劇祭2023」の最新情報は・・・

SPAC公式サイト、演劇祭2023特設サイトにて、随時お知らせいたします。

演劇祭特設サイト <https://festival-shizuoka.jp>

SPAC公式サイト <https://spac.or.jp>

@_SPAC_ / SPACshizuoka / @spac_shizuoka / YouTube @spac_shizuoka

SPAC-静岡県舞台芸術センター

〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡2丁目3-1

TEL：054-203-5730（静岡芸術劇場） FAX：054-203-5732

SPAC公式サイト：<https://spac.or.jp>

E-mail：koho@spac.or.jp [広報担当共通アドレス]

広報担当：坂本彩子(sakamoto@spac.or.jp) 計見葵(keimi@spac.or.jp) 西村藍(nishimura@spac.or.jp)

佐藤美咲(m_sato@spac.or.jp) 豊島勇士(toyoshima@spac.or.jp)

「ふじのくににせかい演劇祭2023」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当：坂本・西村 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008（舞台芸術公園） / E-mail：koho@spac.or.jp



東アジア
文化都市
2023静岡
Cultural City of East Asia
2023 SHIZUOKA

